

春の視察研修会

トヨタ産業技術記念館・名古屋城本丸御殿

事業委員会主催による視察研修会が4月9日（火）実施された。会員及び一般参加者125名は、近鉄奈良駅前から2台、近鉄八木駅前から1台の観光バスに分乗、名古屋方面へ出発。途中、上野ドライブインで合流、最初の見学場所である『トヨタ産業技術記念館』へ向かった。

トヨタ産業技術記念館

トヨタグループの共同事業としてグループ発祥の地である旧豊田紡績株式会社本社工場跡に設立された。「紡ぐ・織る」技術の基本と歴史を知る『繊維機械館』と開発・生産技術の変貌を学ぶ『自動車館』に分かれている。建築史的にも貴重な赤レンガの建物を産業遺産として保存・活用し、近代日本の発展を支えた基幹産業のひとつである繊維機械と、現代を開拓し続ける自動車の技術の変貌を紹介。「研究と創造の精神」と「モノづくり」の大切さを本物の機械



繊維機械館



自動車館

の動態展示と多彩な実演を通じて伝えている。

参加者は、館長からトヨタの歴史など説明を受け、各自館内を見学。繊維機械館では、綿花の精製、足踏み式織機の改良や自動織機の歴史、特許に関してなど各コーナーでガイドさんの実演・説明を受けながら見学。自動車館では、初期の困難な製作の様子から、現代の自動車への移り変わりなど、トヨタの開発、国産車生産技術の歴史を、いろいろな実演を交えた展示で学ぶことが出来た。

名古屋城本丸御殿

浩養園での昼食後、名古屋城へ。

昭和5年、天守閣とともに国宝に指定されたが戦災により消失。平成21年から10年の歳月をかけ復元工事を行い昨年の6月に完成。江戸幕府将軍が宿泊するために建造された最も豪華絢爛な「上洛殿」や「湯殿書院」なども公開。日本を代表する近世書院造の建造物で、優美な外観とともに、400

年前の障壁画が現代の絵師により甦り、建築・絵画・美術工芸史において高く評価され、名古屋の伝統を未来につなぐ叡智と技術と文化の結晶である。

参加者は、当時の徳川家光のために造られた上洛殿など、保存された資料をもとに忠実に復元されている障壁画や天井、欄間など絵や彫刻などを見学。400年前、決して一般庶民が見ることの出来なかったお殿様たちと同じ景色を、タイムスリップして見る事が出来た。

また、ドアの取っ手や天井の角まで隅々まで細かく彫ってあり、そこに金箔が貼られているのに関わった職人や昔の技術の高さなどにも感動することが出来た。



名古屋城本丸御殿